

**授業概要**

財務諸表は、貸借対照表や損益計算書といった会計報告書の総称である。財務諸表は、一般に、制度の下で公表される財務諸表を対象とし、その財務諸表が伝える内容は、財務諸表の利用者の関心に適ったものでなければならない。また、財務諸表が伝える内容は、企業の経済活動の記録に基づいた結果であり、その記録内容や結果は、適切に表示されなければならない。したがって、財務諸表論では、財務諸表を作成、表示するための一定のルールすなわち法規や会計基準や、具体的な経済活動とその会計処理について学べるよう講義する。範囲が後半であるために、財務諸表論は、IとIIに分かれている。

**授業計画**

第1回	ガイダンス・簿記演習（取引の仕訳と勘定記入）
第2回	簿記演習（決算整理と財務諸表）
第3回	企業会計基準と企業会計原則
第4回	企業会計原則（一般原則）
第5回	概念フレームワーク
第6回	資産会計～分類と評価基準
第7回	金融商品～有価証券の購入と売却
第8回	金融商品～有価証券の評価
第9回	流動資産～棚卸資産（売上原価の算定）
第10回	流動資産～棚卸資産（減耗損と評価損）
第11回	固定資産～有形固定資産（基礎）
第12回	固定資産～有形固定資産（減損）
第13回	固定資産～無形固定資産と繰延資産
第14回	経過勘定項目
第15回	まとめ
第16回	定期試験

※ 内容は目安であるため、内容が前後したり、複数回にわたることがある。

**到達目標**

- ・簿記処理を中心とした具体的な会計処理を理解することができる。
- ・開示されている財務諸表の概略を理解できる。

**履修上の注意**

・公表される財務諸表を対象とした授業なので、簿記検定の範囲でいえば商業簿記2級以上の内容が含まれる。また、授業内容に仕訳を含む。1年次から履修登録が可能である理由は、入学前から簿記会計にかかわる学習経験者がいるためであり、学習経験者以外は、初級簿記および中級簿記を履修した後に登録すること。

**予習・復習**

- ・予習：テキストの下読み。初級簿記、中級簿記の復習。
- ・復習：参考文献等の簿記演習。

**評価方法**

- ・定期試験（筆記）で評価する予定である（持込は電卓のみ可）。  
（中間テストまたは課題を実施した場合には、中間テスト・課題 40%と定期試験 60%程度とする）
- ・規定の出席回数を満たしていない場合には、原則として、単位を認定しない。

**テキスト**

- ・浦崎直浩ほか編著『財務会計テキスト』同文館、2,700円＋税（ISBN：978-4-495-21045-8）。  
なお、秋期の「財務諸表論II」でも使用する。
- ・＜参考文献＞渡部他『検定簿記講義 2級商業簿記』中央経済社 900円＋税  
毎年改訂されるので、最新版を参照すること。